

◆大人の自然観察会 ~冬芽を観察しよう~

さまざまな動植物が見られるみどり森で、大人向けの自然観察会をおこないます。木のさまざまな冬芽の姿に自然界の営みを再発見。初心者向けです。

日時：1月24日(土) 9:30~12:00
対象：中学生以上
定員：20名
参加費：100円(保険代)
要申込：12月23日から受付を開始します。

◆里山文化講座 「みどり森の歴史めぐり」

みどり森周辺の石碑などを巡って歩きながら、里山の人々の歴史的なつながりを学びます。案内所に集合、早稲田大学バス停で解散です。

日時：2月21日(土) 10:00~12:30
対象：中学生以上
定員：20名
参加費：300円(保険代・資料代)
要申込：1月21日から受付を開始します。

◆みどり森「2時間ボランティア」 ~雑木林の木を育てるお手伝い~

短時間のボランティア活動として、下草刈りや落ち葉掃きなど林床の手入れ作業をします。

日時：3月7日(土) 10:00~12:30
対象：小学生以上(小学生は保護者と参加)
定員：20名
参加費：100円(保険代)
要申込：2月7日から受付を開始します。

◆親子はじめての自然観察

親子向けの自然観察会です。春の水辺や雑木林で活動をはじめた生きものを間近に観察しましょう。

日時：3月29日(日) 9:30~12:00
対象：小学生と保護者
定員：20名
参加費：100円(保険代)
要申込：2月28日から受付を開始します。

★イベントのお問合わせ・申し込み★

電話(TEL 04-2934-4396)で博物館までご連絡ください。また、公式ホームページからお申し込みできます。イベント内容等の詳細は、お気軽にお問合せください。みなさんの申込みをお待ちしております!

「みどり森週末ガイドウォーク」実施中!

上記イベントの他、第2土曜日と第4日曜日に当日募集型のガイドウォークを実施中。案内所や大谷戸湿地周辺をスタッフがご案内します。内容は毎回変わりますので、どんなテーマか、当日まで楽しみに!

★1~3月までのガイドウォーク実施予定★

実施日：1月25日(日)、2月14日(土)、2月22日(日)、3月14日(土)、3月22日(日)
時間：土曜日は13:00~14:00、日曜日は11:00~12:00となりすので実施時間にご注意ください
参加費：無料(全ての日程で共通) / 当日案内所にて受付いたします

博物館からのお知らせ

霜がおりている木の橋や、霜柱がとけたぬかるみで、すべりやすくなっている所があります。また、強風の日はかかり木の落枝などもありますので、散策する際は、ご注意ください。

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生き物をむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
7) ゴミは持ち帰りましょう。



開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
【公式HP】http://saitama-midorinomori.jp/
指定管理者 株式会社自然教育研究センター

発行：さいたま緑の森博物館
発行年月：2015年1月
住所：〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
TEL/FAX：04-2934-4396

今年、みどり森は開館20周年!

地域の方々の自然保護運動がきっかけとなり、平成7年7月に開館した『さいたま緑の森博物館(みどり森)』は、今年で開館20周年を迎えます。20周年を記念して、様々なイベントを実施予定です。詳細は決まり次第、案内所やホームページ等でご案内いたしますので楽しみに! これからも、人と生きものでにぎわう「みどり森」を目指して、スタッフ一同、頑張っていくしますのでたくさん遊びにいらしてくださいね。



今号のニュースレターは... 植物の冬ならではの装い『樹木の冬芽』を紹介しします。冬芽は実際に観察しようとする木の上の方で見にくいことが多いのですが、今回は観察できる場所も一緒にご紹介します! 冬晴れの気持ち良い日は、このニュースレターとルーペを片手に冬芽ウォッチングしてみませんか?

みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館がテーマとしている雑木林や湿地などについて、毎号キーワードを挙げて紹介しています。今回は『林床の植物』と『谷戸田』です。里山は私たち人間だけでなく、その地域で暮らしている野生の生きものたちにとっても大切な生活場所なのです。

Open book layout with two pages. Left page: 'その12 谷戸田' (Itsunokuchi no Ura) text. Right page: 'その11 林床の植物' (Rinsho no Shokubutsu) text. Includes a small 'みどり森では...' (In Midori Mori...) text box on the left page.

ふゆめ 冬芽をみつけよう!

「山眠る」ならぬ「森眠る」冬のみどり森。
葉が落ちた木の枝をよく見ると、ふくらんだ芽（冬芽）を見つけることができます。冬芽は、春に芽吹く「葉」や「花」が折りたたまれて入っており、冬の寒さや乾燥に耐えながら春の訪れを待っているのです。ここでは大谷戸湿地のまわりで観察できる冬芽の一部を紹介します。

観察のポイント

★じっくり見てみよう★

小さな冬芽も多いので、違いを見るには「ルーペ」の使用がおすすめです。どんな色や形をしているか、細部までじっくり見てみましょう!

★やさしくタッチ★

冬芽は葉や花の大事な赤ちゃん。傷つくと寒さから身をまもれなくなってしまいます。観察するときは折らないようにやさしく見てくださいね。

冬芽の基本!!

鱗芽（りんが）と裸芽（らが）



私は『鱗芽』。葉が変化した『芽鱗』という覆いに包まれている冬芽です。

鱗芽の「りんがちゃん」



僕は『裸芽』。芽鱗がなく、芽がむきだしの状態で冬を越すことのできる冬芽なんだ。

裸芽の「らがくん」

※①～⑧までの冬芽について、鱗芽の冬芽は「りんがちゃん」が、裸芽の冬芽は「らがくん」が紹介してくれます。

①贅沢な冬芽? ニワトコ



細い水滴のような形の『葉芽』と大きく丸い『花芽』があります。普通の冬芽と違い、花芽の中に葉も一緒に入っているのが特徴です。

ようが 葉芽

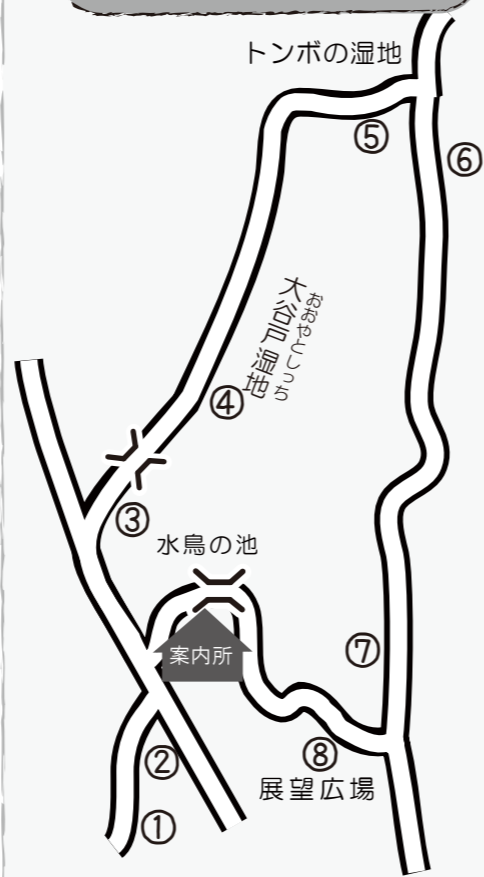
か花芽

花芽には葉も一緒に入っている (混芽といいます)

断面図

※花芽は春になると花になる芽のことで、葉芽は春になると葉になる芽のことで、

みどり森 冬芽観察マップ



このマップには①～⑧までの冬芽が観察できる場所がのっていますので観察する時の参考にしてくださいね!

②ウサギ じゃないよ クサギ



枝先の冬芽は動物の耳のような形をしている?

冬芽は紫色の毛に覆われているんだ。枝先についた冬芽は動物の耳のような形をしています。そして枝の側面には丸く目立たない冬芽がついているんだ。



④赤いつり目 ゴンズイ



枝先に赤い冬芽を2つつけます。でも、たまに1つや3つの時も…この冬芽には毛がありません。



枝先につく冬芽は2つつり目に見える?

ときどき3つのこともある

⑥つるつる ふたご? オトコヨウゾメ



枝先に黒っぽい紫色の冬芽が1つまたは2つつきます。芽鱗の数は冬芽1個につき4枚です。この冬芽は表面に毛がなくて、つるつるです。



毛がなくてつるつる

内側の芽鱗2枚は大きい

外側の芽鱗2枚は小さい

③重ね着上手 クヌギ



重なった芽鱗が目立つ (芽鱗の縁には毛がはえている)

茶褐色の冬芽で、1個の冬芽につき20～30枚も芽鱗があります。芽鱗は良く観察してみると、1枚1枚の縁に灰色の毛がはえているんですよ。



⑤星が はえてる アカメガシワ



黄色い毛がびっしり

せいじょうもう 星状毛

葉の形まではっきりわかる冬芽だよ。表面は黄色い毛に覆われていて、その毛をよく見ると星形をしているんだ。(このような毛を星状毛といいます)



⑦とんがり帽子は 飛ばされやすい リョウブ



灰色の毛がはえた鱗芽をかぶっています。この芽鱗はとても取れやすいんですよ。

芽鱗がとれると裸芽になるよ。



帽子のように見えるのは芽鱗 (外れやすい)

裸芽には光沢のある毛が生えている



⑧備えあれば 憂いなし エゴノキ



褐色の冬芽で、表面には細かい星状毛がはえている。よく見るとメインの芽(主芽)の近くに、予備の芽(副芽)があって、主芽になにかあったときは代わりに副芽が成長するんだ。

しゅが 主芽

ふくが 副芽

冬芽は春になると開き、花や葉になるんだ。

そして、夏にはその年の冬を越すための新たな冬芽を見ることが出来ますよ。

～参考文献～
馬場多久男、1984、冬芽でわかる落葉樹、284pp。
葉山忠三郎、1997、樹木の冬芽図鑑、204pp。
平野弘二、1989、冬の樹木、保育社、207pp。
広沢毅、2010、冬芽ハンドブック、文一総合出版、88pp。
(財)日本自然保護協会、1994、自然観察ハンドブック、平凡社、pp194-197。
鈴木康夫・高橋冬・安延尚文、2014、樹皮と冬芽、誠文堂新光社、271pp。